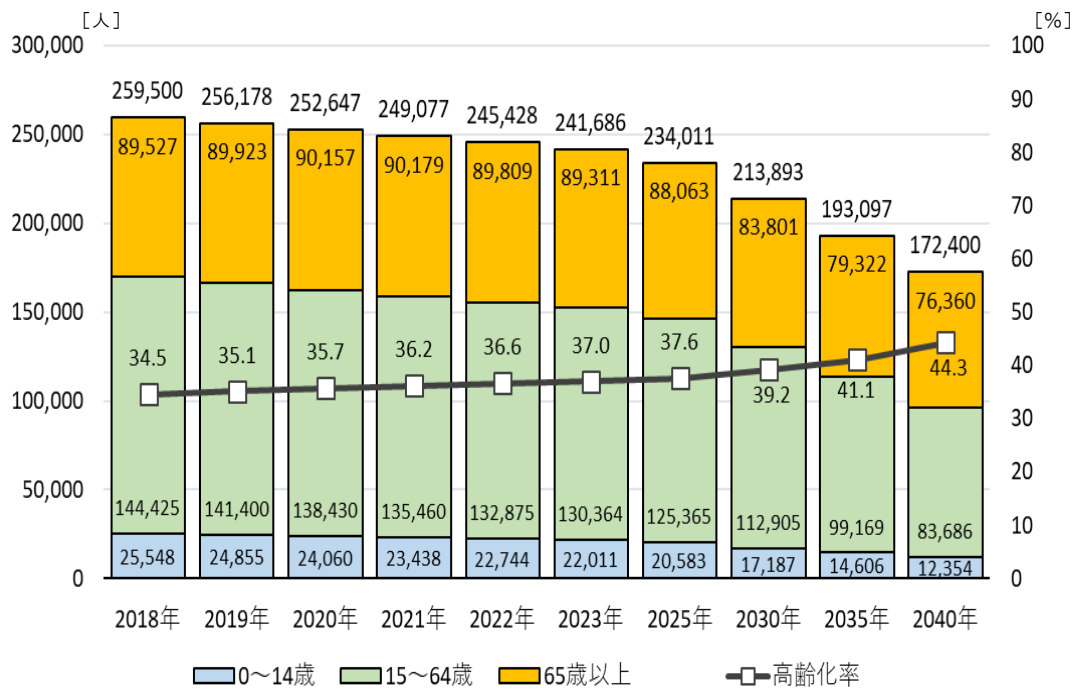


函館市における地域包括ケアシステムの推進について

【現状1】

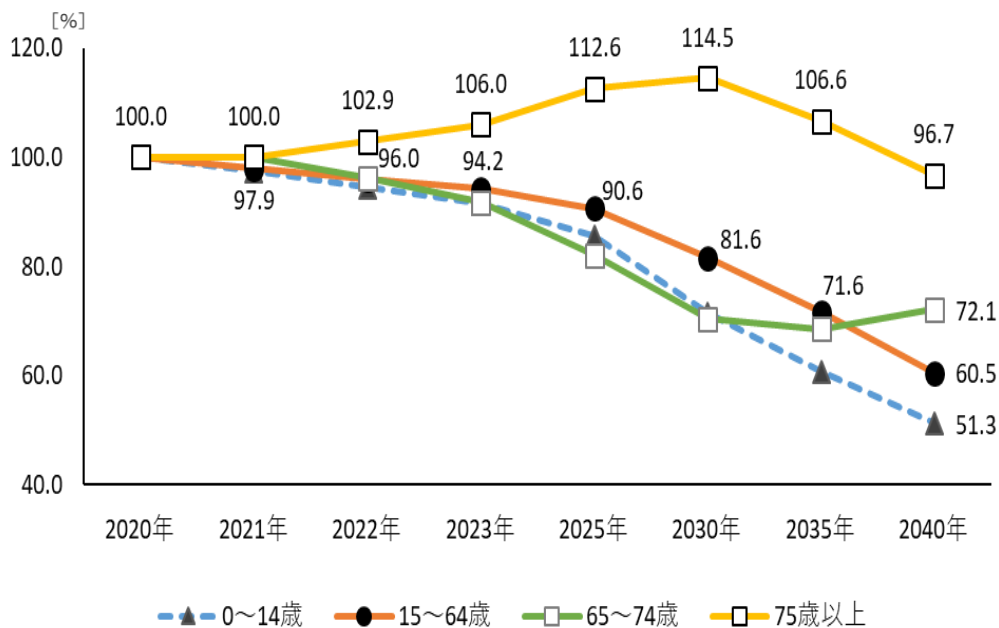
本市の総人口は減少傾向にあり、高齢者数、生産年齢人口ともに減少していくものと見込まれますが、65歳未満の人口の減り方が高齢者数の減り方を上回るため、今後も高齢化率は上昇していくことが予測されます。

【本市の人口と高齢化率】



※2018年～2020年：住民基本台帳の9月末時点実績値
 ※2021年～2040年：住民基本台帳（2015～2020年の各年9月末時点）の各歳人口を
 基にコーホート変化率法により独自推計した
 により独自に推計した

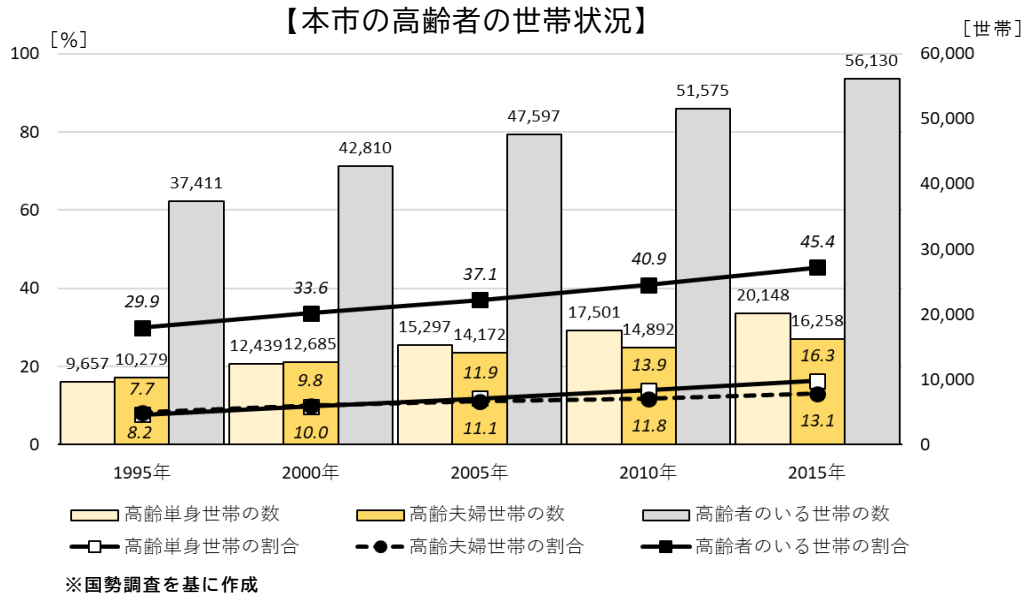
【参考：2020年9月末時点を100とした場合の年齢区分ごとの増減推移】



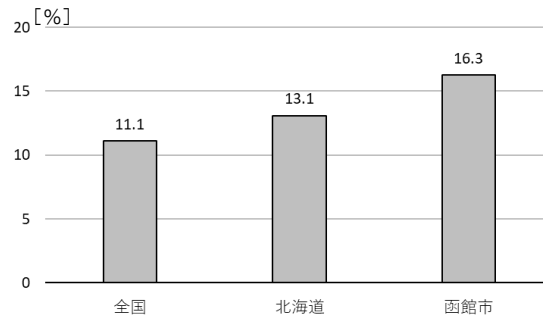
【現状2】

本市では一般世帯に占める高齢単身世帯の割合は増加傾向であり、2015年の国勢調査では、一般世帯のうち16.3%が高齢単身世帯となっており、国や北海道と比較して高い状況にあります。

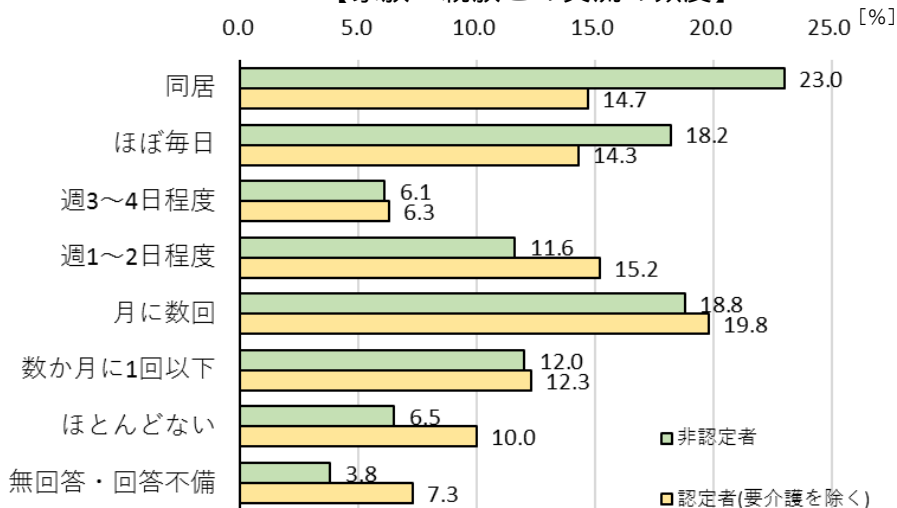
また、要支援者等の約5割が単身世帯であることや、家族・親族との交流の頻度が少ない高齢者の存在などから、高齢者の心身機能が低下した際に、頼ることができる家族等がおらず、介護サービスの利用につながりやすいことがあるものと推察されます。



【参考：2015年国勢調査結果における一般世帯に占める高齢単身世帯の割合の比較】



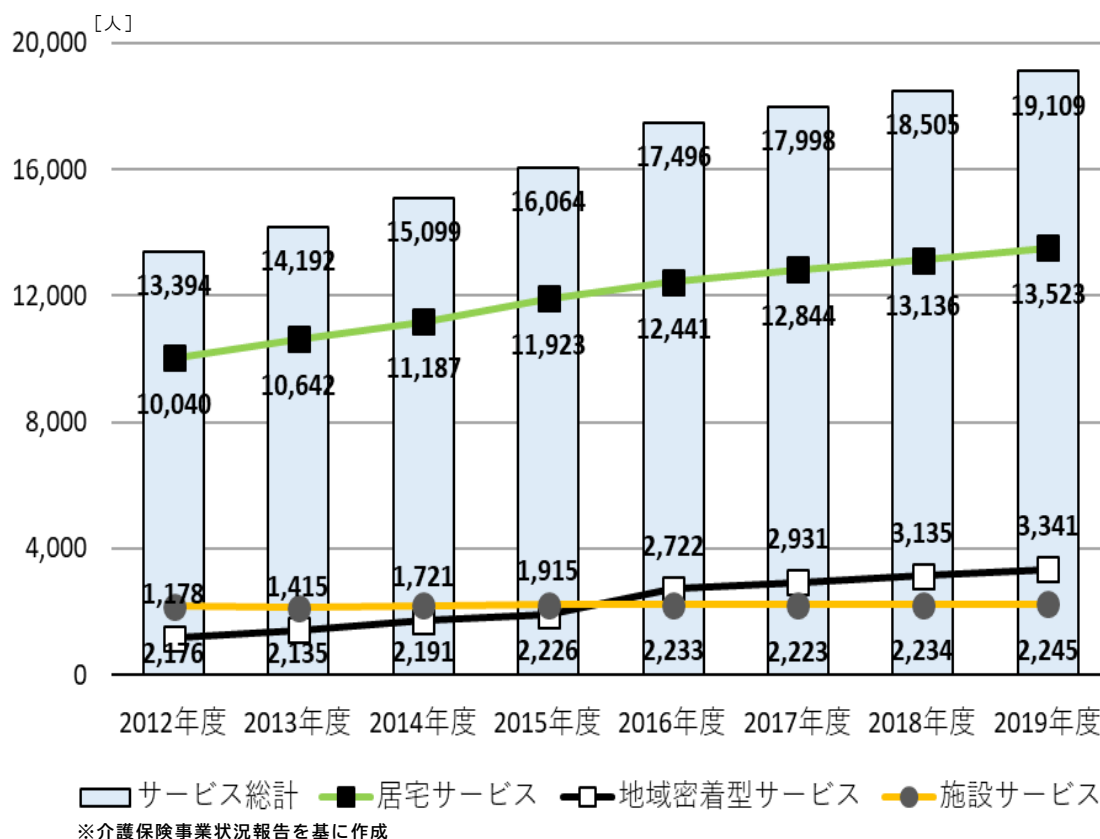
【家族・親族との交流の頻度】



※2019年度 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
 ※非認定者…要介護等の認定を受けていない人（いわゆる健康者）
 ※認定者…要介護等の認定を受けている人のうち、要介護1～5以外の人

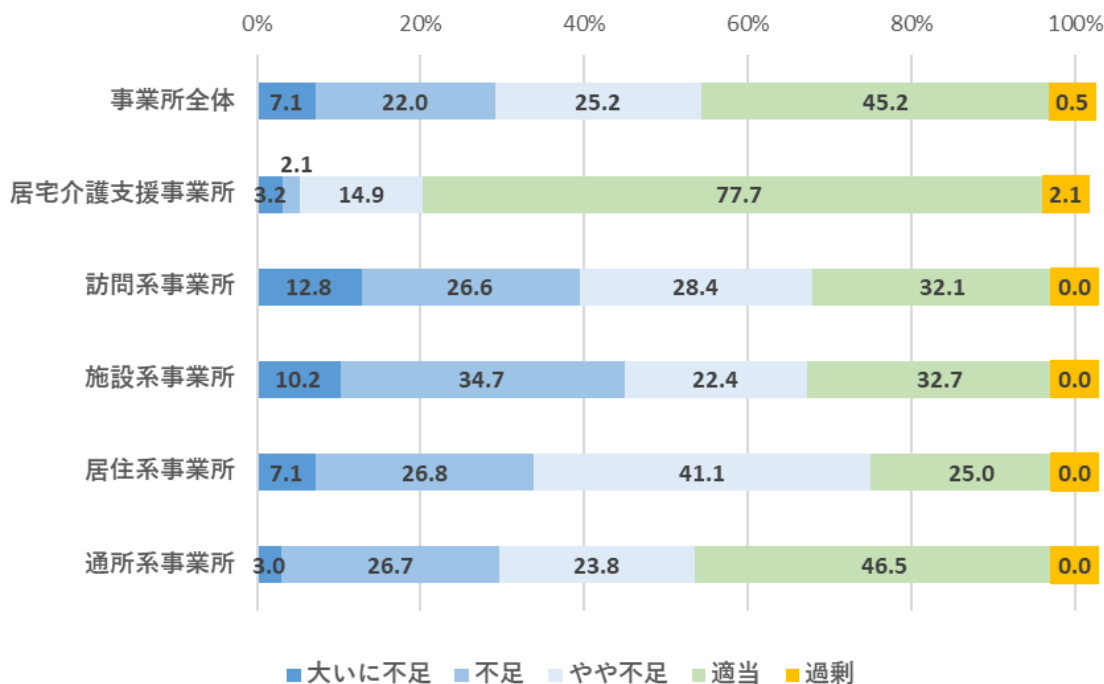
【介護保険サービスの利用者数（月平均）】

施設サービスの利用者数は横ばい、居宅および地域密着型のサービス利用者数は増加傾向にあります。



【サービス類型別の従業員の過不足の状況】

市内介護サービス事業所の約5割が、従業員の不足を感じています。

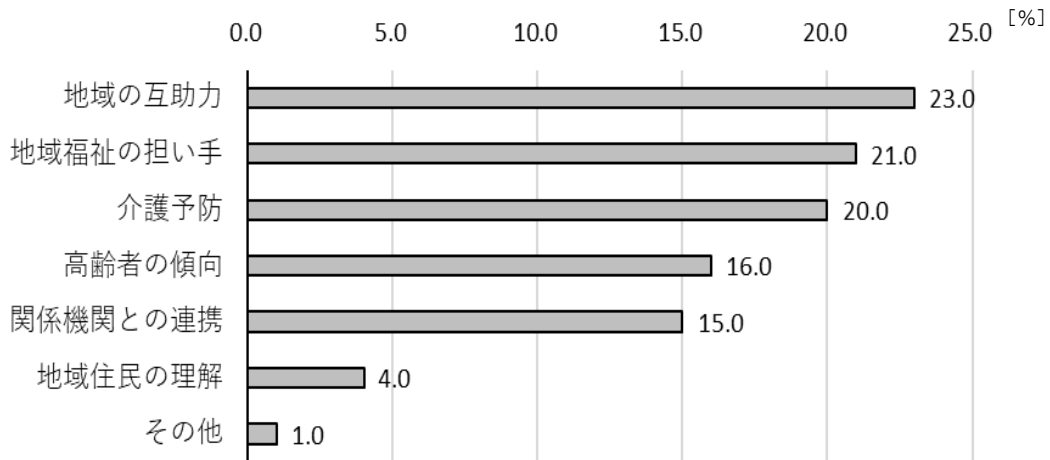


※介護人材の確保・定着に関する実態調査

【現状3】

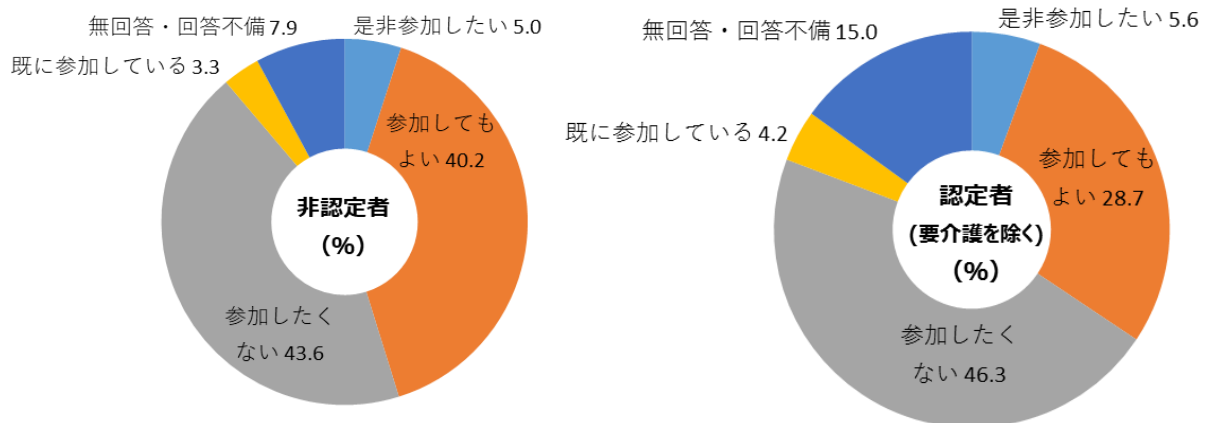
地域においても、住民同士の互助力の低下や手助けが必要な世帯の増加などが課題として認識されてきている一方で、地域づくりに前向きな高齢者が一定数存在することが分かっています。

【地域ケア会議で抽出された地域課題】



※2019年度 函館市地域包括支援センター活動実績

【地域づくりに参加してみたい人の割合】



※2019年度 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
 ※非認定者…要介護等の認定を受けていない人（いわゆる健康者）
 ※認定者…要介護等の認定を受けている人のうち、要介護1～5以外の人

【現状1～3から考えられる課題】

今後、本市の高齢者数は減少していきませんが、介護ニーズが高い75歳以上の後期高齢者の数は増加していくこと、その一方で15～64歳までの生産年齢人口は減少していくことが予測され、高齢者の生活を支える担い手の不足が見込まれることから、高齢化が進むなかで、支え合いながら暮らすことができる社会を築いていくことが求められます。

このため、高齢者本人の心身機能の維持・向上の取り組みにより介護ニーズの発生を抑えることはもとより、元気な高齢者（アクティブシニア）は就労やボランティアなど、地域の担い手として積極的に活躍していただくことや、介護サービス事業所の運営体制を充実させることなどが求められます。

また、地域づくりに前向きな、キーパーソンとなる高齢者の方々を地域活動に結び付けていくことや、そのような方々と地域包括支援センター等の関係機関が協力し、地域活動への参加の意識の浸透を図り、多様な主体による高齢者の生活の支援体制づくりを進めていくことが重要です。



上記の課題を踏まえ、次ページの表に記載のとおり3つの基本方針を定め、7項目の基本施策に応じた各種施策に取り組みます。

基本理念：いきいき長寿都市宣言

いつまでも健康で生きがいを持ち、安心して生活できる社会をめざして

基本方針Ⅰ	基本方針Ⅱ	基本方針Ⅲ
地域の支え合いの推進	自立した生活を送ることができる環境の整備	安定した介護保険制度の構築
地域の多様な主体の連携や市民相互の支え合い等を推進し、思いやりにあふれ、安心して暮らすことができる社会の実現をめざします。	高齢者が生きがいを持ち、自立した生活を送ることができるよう、生活環境等の整備を進めます。	質の高い介護保険サービスを適切かつ公平公正に受けられるよう、サービス提供環境の充実と適正な運営の確保を図ります。

基本理念	基本方針	基本施策	
		施策目標	個別施策
いつまでも健康で生きがいを持ち、安心して生活できる社会をめざして	I 地域の支え合いの推進	1 共に支え合う地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域包括支援センターの機能強化 (2) 地域ケア会議の推進 (3) 高齢者の日常生活支援体制の充実・強化 (4) 高齢者虐待防止の推進 (5) 地域における見守り活動の推進 (6) 介護に取り組む家族等への支援の充実 (7) 福祉コミュニティエリアにおける取組の推進
		2 在宅医療・介護連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> (1) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討 (2) 医療・介護連携支援センターの機能の充実
		3 認知症高齢者等への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) 知識の普及と理解の促進 (2) 認知症の人と家族への支援体制の強化 (3) 医療・介護・地域連携による適時・適切な予防・支援の推進 (4) 成年後見制度の利用促進
	II 自立した生活を送ることができる環境の整備	4 介護予防・健康づくりによる自立の推進	<ul style="list-style-type: none"> (1) 介護予防の普及・啓発 (2) 地域の主体的な介護予防活動の支援 (3) 地域リハビリテーションの推進 (4) 高齢期の健康づくり・疾病予防の推進
		5 主体的な社会参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> (1) 支え合い活動への参加支援 (2) 生涯学習・スポーツ活動の推進 (3) 就業機会の拡大
		6 暮らしやすいまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民協働の推進 (2) 安心・安全な生活の確保 (3) 福祉のまちづくりの推進 (4) 高齢者向け住まいの充実
	III 安定した介護保険制度の構築	7 介護保険制度の適正な運営	<ul style="list-style-type: none"> (1) 情報発信の充実 (2) 人材の確保と業務改善の推進 (3) 事業者への支援・指導体制の充実 (4) 低所得者向け施策の実施 (5) 介護認定の公平性・公正性の確保 (6) 介護給付適正化計画の推進

■ 計画における成果指標

指 標		現状値	目標値	指標設定の考え方
1	家族・親族以外に関わりがあまりない人の割合	非認定者 19.2% 要支援者等 11.4% [2019年度]	非認定者 19.2%未満 要支援者等 11.4%未満 [2022年度]	高齢者と様々な人との関わりを示す指標です。 現状値未満を目標値とします。
2	会・グループ（町会，趣味サークル等）への参加割合	59.9% [2019年度]	59.9%超 [2022年度]	高齢者の社会参加の状況を示す指標です。 現状値超を目標値とします。
3	介護予防教室の開催数	479回 [2019年度]	600回 [2023年度]	高齢者の介護予防の取組状況を示す指標です。 2023年度で600回を目標値とします。
4	リハビリテーションサービスの利用者割合	7.5% [2019年度]	7.5%超 [2023年度]	リハビリテーションサービスの提供状況を示す指標です。 現状値超を目標値とします。
5	認知症サポーター養成研修の受講者数	累計 14,814人 [2019年度]	累計 20,000人超 [2023年度]	認知症高齢者やその家族を支援し見守る体制の推進状況を示す指標です。 2023年度末で累計20,000人超の受講者を目標値とします。
6	はこだて医療・介護連携サマリー活用機関の割合	52.5% [2019年度]	52.5%超 [2023年度]	在宅医療・介護連携に係る取り組みの活用状況を示す指標です。 現状値超を目標値とします。

※ 指標1，2の値は，介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による。